



『着任のご挨拶』

第5航空群司令
海将補 平木 拓宏

第5航空群広報誌「でいご」をご覧の皆様、はじめまして。

令和6年8月2日付で、第27代第5航空群司令を拝命し、第31航空群司令(山口県岩国市)から着任しました平木です。

沖縄での勤務は、初めてとなりますが、平素より、広報誌「でいご」を発行していただいている「沖縄二火会」をはじめ、各自衛隊協力団体の皆様及び地域の皆様からの我々の任務に対するご理解及び各種活動や行事等に対する、格別のご支援とご協力に対し、改めて第5航空群を代表して厚く御礼申し上げます。

また、那覇航空基地も前身の臨時沖縄航空派遣隊から数えて、今年で52周年を迎えました。10月

には創立記念行事も計画しています。これもひとえに皆様のご支援とご協力の賜物だと感謝しております。

さて、我々、第5航空群は、美しく大切な海を守るための「美ら海の防人」として、365日、毎日、P-3C哨戒機を用いて、沖縄を含む南西諸島近海周辺海域の警戒監視等の任務を実施しています。また、ソマリア沖アデン湾での海賊対処行動任務のため、P-3C哨戒機及び隊員を、これまで21回ジブチに派遣し、ヨーロッパと日本との貨物等を輸送する船舶の航行の安全に寄与するとともに、中東地域における日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集を行っております。

戦後最も厳しいと言われる我が国周辺の安全保障環境、そしてウクライナやパレスチナ情勢に象徴される

ような予測困難な国際情勢である中、我々、第5航空群は、「地域とともにある部隊」として地元・周辺自治隊との相互支援、連携強化に努めつつ、皆様の安全・安心を護るために、これからの厳しい時代に即応出来る部隊を目指し、自らの職務に誇りを持ち、一致団結して、国民の皆様の負託に応えていく決意を新たにするとここであります。

我々の取り組みは、沖縄県民の皆様のご理解とご支援があつて初めて成り立つものです。今後も支援団体の皆様を中心に、当群の現状等について、説明の機会を設けさせていただけたらと思っております。

最後になりますが、今年の沖縄県の気候は、例年になく気温も高くなっていると聞いており、残暑が厳しくなることと思いますが皆様におかれましては、くれぐれもお身体をご自愛ください。また、引き続き変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。着任のご挨拶とさせていただきます。



発行：沖 縄 二 火 会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新 栄 印 刷

第27代 第5航空群司令 平木海将補着任



着任挨拶



第5航空隊司令 佐野 太郎
1等海佐

令和6年8月1日付第5航空隊司令として、海上幕僚監部防衛部防衛課(市ヶ谷)から着任いたしました白井と申します。猛暑の関東から異動して参りましたが、同じ暑さでも沖縄のものは心地よく感じられます。私自身、13年振りの沖縄勤務を非常に懐かしく、また、嬉しく感じるとともに、東シナ海を始め我が国周辺海域における安全保障環境の厳しさに改めて接し、身の引き締まる思いで日々勤務しております。そして、沖縄二火会はじめ、沖縄海友会、沖縄県防衛協会、沖縄県隊友会、沖縄県自衛隊家族会、小緑地区自衛隊親睦会の支援団体の皆様、そして地域の皆様には、平素から

空隊に対するご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

那覇基地周辺の様子は10年以上とは大きく変わり、驚きを禁じ得なかった一方で、前回の勤務時に感じたときと変わらぬ、むしろそれ以上の地域の皆様方のご理解と温かいご支援がありますことは、大きな喜びであります。

皆様のお力添えのおかげで、我々第5航空隊の隊員一同が警戒監視を始めとする日々の任務にまい進できると改めて認識し、この場をお借りしまして心から感謝申し上げます。

戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に立ち向かうべく、精強かつ活気に溢れ、国民の皆様から信頼される誠実な部隊を目指し、我々第5航空隊は一丸となって努力して参ります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

基地・防衛モニター部隊見学

令和6年6月7日(金)「基地・防衛モニター部隊見学」が行われました。

令和5年度に委嘱された基地・防衛モニターは、航空自衛隊第9航空団等の見学を、令和6年度に委嘱された基地・防衛モニターは、海上自衛隊那覇航空基地隊を見学しました。海自那覇航空基地の見学では、陸上・航空自衛隊及び自衛隊沖縄地方連絡本部の防衛モニターも参加しました。

空自第9航空団の部隊見学では、戦闘機等の見学とともに、航空自衛隊と海上自衛隊の任務の違いや沖縄の現状について説明を受けました。

空自南西航空音楽隊では、展示演奏があり、生の演奏に感激していました。

海自那覇航空基地隊では、ラッパ吹奏、救急法や基本教練の体験等が行われました。心肺蘇生術の実演・体験に「日常生活で学ぶことのない知識や技術を体験出来てとても良



救急法体験



航空自衛隊戦闘機見学



ラッパ吹奏体験



航空自衛隊南西航空音楽隊見学



着任挨拶



第5整備補給隊司令
第1等海佐 志野 雅一

このたび花田前司令の後任として、本年8月1日付で第5整備補給隊司令として海上幕僚監部人事教育部援護業務課(市ヶ谷)から着任しました志野でございます。

沖縄二火会はじめ、沖縄海友会、沖縄県防衛協会、沖縄県隊友会、沖縄県自衛隊家族会、小緑地区自衛隊親睦会の支援団体の皆様には、平素から第5航空群、第5整備補給隊に対して格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

出身は、大阪府東大阪市で、平成8年入隊以来、航空機の整備の仕事を中心に組み込みました。前配置では退職自衛官の再就

職の取り次ぎ業務を担当し、1佐及び2佐で退職される自衛官の第二の人生のご支援を実施しております。

沖縄勤務は今回で三度目となり、幹部となり最初の勤務地として平成10年からの2年半、検査隊長として平成25年からの2年間勤務した経験がございます。今回は9年振りの沖縄勤務であり、非常に懐かし、また、嬉しく感じております。

整備補給隊は、第5航空群が保有する航空機を常に任務に即応でき、また、安全を確保できるように維持、整備、補給することを任務としております。任務が達成できるように隊員一丸となって取り組んでまいりますので引き続き、前任者同様にご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

海軍戦没者慰霊祭支援



沖縄海友会 門馬会長 (祭文奉納)

日本海軍戦没者慰霊祭は、119周年にあたる令和6年5月27日、沖縄県豊見城市の「海軍戦没者慰霊之塔」において「第62回海軍戦没者慰霊祭」が一般社団法人沖縄海友会主催により執り行われました。

第5航空群からは、同行事の支援として、艦旗の掲揚・降下、ラッパ吹奏、儀仗隊による弔銃発射等のために隊員が派出されました。

海軍沖縄方面根拠地隊司令官大田實海軍中将の三男である落合峻氏をはじめとする御遺族、旧海軍出身者と海自OBからなる沖縄海友会(会長 門馬規雄氏)会員、陸・海・空自衛隊、沖縄地方協力本部の各指揮官及び先任伍長等が参列し、沖縄戦を含む先の大戦での戦没者に哀悼の誠が捧げられるとともに、恒久平和が祈念されました。

門馬会長は祭文で、大田司令官の、沖縄県民に対する憂えに思いを致され「『沖縄県民斯く戦えり、

県民に対し後世特別の御高配を賜らんことを」と結ばれた700字にのぼる海軍次官宛ての電文は、正に「歴史の証言」であり、戦争の悲惨さを切実に訴えておられ、恒久平和への祈りと誓いを新たにされるものであります。」と述べられました。また、「今もここ沖縄は、日本の外交及び防衛上の焦点となっております、(中略)(記注…沖縄海友会は、陸、海、空の自衛隊及び海上保安庁並びに在沖米軍の)その崇高なる任務遂行が円滑に行われます様、県内各友好団体と協力し支援して参ります。」と述べられました。



儀仗隊支援



「海上自衛隊の日」について

「海上自衛隊の日」は、昭和27年4月26日に海上自衛隊の前身である「海上警備隊」が創設された日を「海上自衛隊の歴史と伝統を考える日」として、平成25年に制定されたものです。海上自衛隊の各部隊等では、毎年4月26日に、講話や研修等が行われています。

第5航空群においても、第5航空群司令の講話、隊歌訓練や那覇航空基地内にある砲台（旧海軍遺跡）研修等が行われました。



海上自衛隊

職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊第5航空群において勤務されている隊員及び職種について紹介します。

海上自衛隊には、航空管制員や調理員、通信員等、多数の職種があり、全33職種で約50種類の業務が行われています。

その中から今回は、那覇航空基地隊経理隊で勤務している隊員を紹介します。

質問事項

- 1 仕事内容
- 2 将来の目標
- 3 これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ



那覇航空基地隊経理隊契約班…経理員

大石士長

① 那覇航空基地隊経理隊契約班で物品調達に契約・原価計算担当者として勤務しています。

契約する対象は、消しゴム、鉛筆から数億円以上の道路・建物の補修、航空機・艦船等の修理・購入など多岐に渡ります。応札業者を募集し、業者が算出してきた価格に対して市場の動向を調査し、正当性の可否を精査した上で、予定価格を作成後、入札を行い、落札業者と協議し契約書類等の作成・支払事務等を実施しています。契約・原価計算業務は、誰がどんなことをして、どうしようとしているか、情報が集約され、お金の動きが可視化されることで、様々なことを知ることができて楽しいです。

担当している業務には、部隊から至急案件として、契約締結を急ぐよう要望される場面があります。しかし、要求元部隊や業者と調整し、希望する納期に合わせて、内容を精査し、確実に契約を行うようにしています。

自分が契約した物・装備品が部隊に納入され、部隊ニーズを満たしているところを見ると、やりがいを感じます。

② 業務内容は難解で、何度も掛けそうになりましたが、上司や同僚のフォローもあり、今では第5航空群の任務達成に寄与するため、旺盛な意欲で勤務に邁進しているところです。

これから部隊等を支える後方支援が実施できるよう、経理員として新たな知識を増やしていきたいと思っています。

③ 高校ではパティシエを目指す専門教育を受けていましたが、縁あって、海上自衛隊に入隊し、経理員を希望しました。部隊配属当初は、パソコンの操作方法も分からないところからスタートしましたが、今では、自分自身で関係法規に則り、業務を実施できるようになりました。経理員は、目立つ存在ではありませんが、部隊等を根底から支える、縁の下での力持ちです。大変だと感じることも時にはありますが、重要な仕事であり、やりがいの感じられる職種です。将来の進路に迷っている方は、ぜひ海上自衛隊に入隊し、経理員を目指しましょう。



那覇航空基地隊

那覇航空基地上曹会 会長交代しました！



第5整備補給隊
1等海曹 照屋 秀世

広報誌「でいご」を、愛読の皆様、初めまして。令和6年度那覇航空基地上曹会

会長の照屋1曹です。まずは、那覇航空基地上曹会についてご説明します。

那覇航空基地上曹会とは、那覇航空基地に所在する部隊に勤務する上級海曹（海曹長及び1等海曹の階級の隊員）で各種事業活動に賛同する者で構成されている任意団体です。会員の融和・親睦を図り上級海曹としての地位を向上させるとともに、各種行事やボランティア活動を通して、中級海曹（2等海曹）以下の隊員に模範を示し、道徳心の涵養に努めることで隊務の運営に寄与することを目的として活動を行っています。

令和6年5月に行われた年度総会で、新会長はじめ副会長以下7名の新役員が選出されました。

今年度も、これまでの役員の活躍にも負けないよう、各種ボランティア活動や各種行事等へ積極的に参加し、隊員家族をはじめとする地域の方々との交流及び親睦に寄与していきたいと考えておりますので、皆様には、



陸海空自衛隊及び米軍との
合同清掃ボランティア



朝の挨拶運動

1万飛行時間達成フライトを終えて

令和6年4月11日（木）、第5航空隊第51飛行隊所属の1等海尉 永山 友士（機上整備員）は、1万飛行時間を無事達成しました。

永山1尉は、平成12年9月14日、第203教育航空隊の修業を皮切りに、第1航空隊、第5航空隊、第1航空隊、第51航空隊、第5航空隊の順にP-3C機上整備員として勤務し、海上自衛隊の任務遂行のため尽力してきました。

当日は、第5航空隊司令をはじめ多くの隊員が、フライトを終了した永山1尉の搭乗するP-3Cをエプロンで迎えました。

永山1尉は、「これまでご指導頂いた諸先輩方や同僚、そして私の仕事を理解し支えてくれた家族があったからこそ、1万飛行時間を無事達成できました。皆様には心から感謝申し上げます。今後も本達成を通じて、任務遂行と飛行安全の要として邁進するとともに、後進の育成に励み、微力ながら航空部隊の更なる発展のために尽力します。」と決意を新たにしました。



記念撮影



那覇航空基地自衛官ファミリー



- ⑤ お互いに一言！
(感謝や要望等)
- ④ 同じ基地内で勤務
しての感想
- ③ 海上自衛隊に入隊し
た動機
- ② 出身地
- ① 職種(仕事内容)

質問事項

このコーナーでは、海上自衛隊 那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。

第8回目は、那覇航空基地で勤務する島本兄弟の紹介です。

那覇航空基地隊 航空警備隊

兄 車両班

弟 警備班



- ① 【兄】地上救難／警備班長兼車両班班長(現配置)・私達兄弟は二人とも、専門職種は地上救難です。航空基地及びその周辺における航空機の事故に際し、地上において速やかに人命を救助するとともに、航空機の損害を最小限にすること、つまり「航空基地の消防士」が主な仕事です。その他にも、航空基地を運用するために必要な「基地の警備」や、人や物など車両を使用して輸送する「車両業務」にも携わっています。私は、ここ那覇航空基地では、車両業務の管理者として勤務しています。
- ② 長崎県佐世保市
- ③ 【兄】私が海上自衛隊を選んだ動機は、既に亡くなった母の影響が大きいです。母子家庭で育てられ、幼い頃から将来は公務員を目指すようにと言われてきました。中学生の頃には既に警察官が自衛官になることを目標としていました。佐世保市というところもあり、海上自衛官の姿を街で見かけることが多くあり、その制服姿に憧れを抱いたことがきっかけです。

- ④ 【兄】周りに兄弟として比較されることが多いので、兄として負けられないというプレッシャーを感じます。成績、体力、勤務態度等ありますが、理想は「背中で語る」です。
- ⑤ 【弟】同じ基地で勤務し、同じ職種という事もあり、兄の知り合いが間違えて声を掛けてくることもしばしば…ただ、勤務上のプレッシャーは特に感じず、職場においては上司と部下の関係を、プライベートでは兄と弟の関係を分けているので、特段兄弟だからと言ったことはあまり感じません。

【弟から兄へ】普段は気恥ずかしく言えないですが、この場を借りて伝えるとするなら、幼少期の頃は半分不登校のような感じで過ごし、兄とも喧嘩ばかりでした。しかし、今、自衛官としてしっかり勤務できるのは、兄の存在がとても大きいです。ありがとうございます。

自衛艦隊司令官からの感謝状贈呈



沖縄二火会会長 佐久本 武氏



令和6年7月1日(月)、護衛艦「いずも」艦上において、沖縄二火会会長佐久本武氏に対し、自衛艦隊司令官(海将齋藤聡)から「沖縄県における防衛基盤の育成」、「地域住民に対する海上自衛隊への理解促進への寄与」等の功績に対し感謝状が贈呈されました。

就任のご挨拶



第5航空群
先任伍長 金城 浩次
海曹長

令和6年7月4日

付で、第5航空群第10代先任伍長を拝命いたしました金城曹長です。

前配置は、第5航

空群隷下部隊の第5整備補給隊先任伍長として勤務していました。

沖縄県南風原町の出身で、沖縄勤務は通算16年となります。

さて、先任伍長の任務は、海曹士隊員の規律と風紀を維持するために、きめ細やかな指導の体制を構築すること、そして隊員の士気高揚と団結の強化に寄与することです。

組織が任務遂行のために全能力を発揮するには、服務規律の厳守は最も重要なことです。そのことを全ての隊員にまで浸透させるため、隷下部隊の先任伍長と強固な連携を図りながら、親身に寄り沿った指導や教育等を隊員に行い、より一層の明るい隊風の育成を目指していく所存であります。

また、各種ボランティア活動や各種行事等においては、海曹士隊員の先頭に立ち、沖縄二火会をはじめとする協力団体の皆様及び地域の皆様との交流を大切にできるよう頑張っております。

皆様の期待と信頼に応えられる部隊となるよう、何事にも「率先垂範」と「温厚篤実」を目指し、職務に励んでまいります。

これからも前任者同様、変わらぬご支援とご厚情を賜りますようよろしくお願いいたします。

第5航空群先任伍長交代

令和6年7月4日、第5航空群先任伍長交代式が実施され、第9代群先任伍長瀬戸口曹長(左)から第10代群先任伍長金城曹長(右)へ先任伍長識別章が引継ぎされました。



うちなんちゅ(沖縄出身)隊員紹介

第5整備補給隊 島袋士長(宜野湾市出身)



私が海上自衛隊に入隊したのは、令和4年4月であり、入隊時の年齢は19歳でした。大学を中退した私に対して、海上自衛官である父が、私に気合を入れるために入隊を勧めたことがきっかけです。

入隊前は、ゴルフに熱中していて、将来の仕事もプロゴルフファーしか考えたことがなく、自分が立派な自衛官になれるのにか心配でした。

教育隊は、長崎県の佐世保市にあり、沖縄を離れるのが寂しく、最初は全く楽しくなかったです。

でも、沖縄出身の同期が沢山いたので、皆で励ましあいながら修業することができました。

教育隊修業後は、沖縄県那覇市にある第5整備補給隊の勤務となりました。地元が沖縄なので、休みの日や仕事の後には、家族と過ごしたり、地元の友達と過ごしたりして充実した生活

を送ることができています。

私の職種は、航空発動機整備員です。3年近くを経て、航空機のエンジン交換等の整備作業やエンジンの試運転を行ったりしています。後輩もできて、自分も指導する立場となり、教えることによって自分もいろんなことについて再認識できています。

まだまだ自衛官として未熟ですが、先輩方の指導の下、これからも日々の業務に勤しんでいきたいと思っています。



航空機誘導作業

那覇航空基地隊 内間士長(南城市出身)



私は、令和4年4月に海上自衛隊に入隊しました。当時24歳であつた私が入隊を決めたきっかけは、知人からの紹介でした。

入隊する前の私は、大学を中退し、バイト生活をしていましたが、年齢を重ねるにつれて自分の将来に不安を感じるようになりました。そんな時に知人から自衛隊を勧められ、出身が離島ということもあり、地元以外の広い世界を知りたいという探求心に駆られたので、思い切って海上自衛隊に入隊しました。

教育隊では沖縄県出身の同期が14名いました。沖縄県の話をするので直ぐに皆と打ち解けることができました。入隊前に抱いていた自衛隊の厳しい生活のイメージも変わり、訓練に励む中で、同期や教官との絆も深めることができました。自分の成長を感じながら楽しく乗り越えることができました。

教育隊終了後は、長崎県大村市にある大村航空基地で部隊実習を経験した後に、沖縄県那覇市に所在する那覇航空基地隊の航空警備隊警備班で勤務しています。

「警備」という業務は、基地内における保安の維持や周辺の警戒、武器の整備及び管理など、自衛隊に入隊するまで知らなかった業務であり、部隊で上手くやっていけるのかと不安でしたが、先輩方の優しい指導もあつて今は不安なく業務に従事できています。

また、地元である沖縄県で勤務できるようになってからは、昔からの友人と会う機会も増えたため、プライベートも充実しています。入隊して約2年経ちましたが、まだまだ学ぶべきことが多くあります。自分の理想とする先輩方に早く追いつけるように、これから日々の業務に努めていきたいです。



基地警備訓練





第5航空群クラブ活動紹介

エイサー部

エイサー部部长 海曹長 金城浩次

第5航空群には、仕事後の余暇時間を利用して活動する運動部及び文化部があります。

このコーナーでは、第5航空群のクラブ活動について紹介していきます。

第11回目となる今回は、令和4年度から本格的に復活した「エイサー部」について紹介します。



第5航空群創立51周年記念行事

夏になると沖縄のいたるところから「イヤ・サーサー」「アイヤ」「スイ、スイ」と言うエイサーの掛け声や太鼓の音が響き渡ります。「夏の風物詩」「伝統文化」「それぞれエイサーに対する印象が頭の中を巡っていると思いますが、多くの方は、太鼓を持った若者の踊りを思い浮かべるのではないのでしょうか。そんな沖縄の伝統芸能であるエイサーを、第5航空群の隊員にも触れてもらい、沖縄の文化を学ぶとともに、各種イベントにおいてエイサーの演舞を披露することで、隊員間の融和団結及び地域の皆様との交流を目的として活動を行っています。

第5航空群エイサー部は、現在18名の部員で活動しており、沖縄の伝統エイサーにとどまらず、ポップな曲に合わせ演舞する、創作エイサースタイルの演舞も行っています。

主な活動は、第5航空群創立記念行事での演舞ですが、那覇基地で行われる「サマーフェスタ」や令和4年11月には、国際観艦式において、観閲艦「いずも」艦上と横浜赤レンガ倉庫をバックしたイベント広場において演舞を披露し、参加した各国との友好親善及び広報活動に大きく貢献しました。

また、令和6年4月には、鹿屋航空基地で行われた「エア・メモリアルin鹿屋」にも出演し、大いに盛り上がりました。

私達、エイサー部は、沖縄の伝統や文化を大切にし、より多くの方々に感動していただけるよう日々練習に励んでいます。皆様への感謝の気持ち忘れず、一つひとつの出会いを大事にするエイサー部であるように、これからも活動を続けていきます。



那覇基地サマーフェスタでの演舞

令和6年5月28日(火)、那覇市に所在する「はぐくみ児童クラブ」の児童が、令和6年2月の「雪のプレゼント」のお礼のために海上自衛隊那覇航空基地を訪れました。

児童代表から第5航空群司令及び第5航空隊司令に対し、感謝の言葉と写真入りの寄せ書きパネルが贈られました。



はぐくみ児童クラブの子供たちとの記念撮影



はぐくみ児童クラブの子供たちに説明する5空隊員

寄せ書きには「雪を遠いところから持ってきてくれてありがとうございます。」や「雪をさわるととても楽しかったです。来年も持ってきてください、お願いします。」等感謝の気持ちがたくさん書かれていました。

その後、「はぐくみ児童クラブ」の児童は、雪を運んだP-3Cの見学を行いました。

はぐくみ児童クラブ表敬

(雪のプレゼントのお礼)

第5航空群司令部広報室 山里3曹



第5航空隊 「初機長フライト」 紹介

海上自衛隊 第5航空隊において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機の搭乗員に感想を伺いましたのでご紹介します。

「初機長フライト」とは、操縦士・航空戦術士が、初めて機長として航空機に搭乗して運航するフライトのことです。初機長フライトに至るまでには多くの訓練を要し、

各段階の検定をクリアし、機長として飛行作業に臨むに相応しい知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、操縦士・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、搭乗員人生の中で一つの大きな節目とも言えるフライトになります。

沖縄の美しい景色の中、初機長フライトを行えた喜びとともに、機長として一層の責任を感じる日となりました。今まで行っていた手順や操作が間違っていないか何度も心の中で確認し、より緊張感をもってフライトに臨んだことを覚えています。また那覇に着陸し、司令をはじめ飛行隊の先輩方や後輩、家族の顔を見たときに、安堵感と喜びは、今後の飛行隊人生の中で最も記憶に残るものだと感じています。引き続き、知識・技能を磨き、国防の最前線で活躍できる精強な搭乗員となれるよう精進していきたいと思えます。最後に、初機長フライトに至るまで厳しくも暖かく支えてくださった先輩方やクルーの方々、また、遅い時間まで航空機を整備し、存分に訓練ができる環境を整えてくださった整備員の方々等からの多くの支援に対し改めて感謝申し上げます。今後も努力を続け、更なる飛躍を目指していく所存です。



令和6年3月27日(水)
初機長フライト

第5航空隊第51飛行隊所属
坂元 2尉

今まではコパイロット(副操縦士)として、または、訓練パイロット、訓練機長として各種任務や教育訓練を実施してきました。しかし、今日のフライトは真正銘の機長であり、助けにくれる教官がいらない中で飛行を実施しました。初機長フライトは短いフライトではありましたが、クルーの命を背負い飛行することになりは、非常に重い機長の責任を感じることができました。少し緊張したものの、今までの訓練で培った技量、知識に裏付けられる自信があったからこそ、平常心で飛行を終えることができました。祝福してくださった飛行隊の皆さん、駆けつけてくれた妻、応援してくれている家族に感謝するとともに、これから安全第一で飛行作業に取り組みしていきたいと思えます。地元和歌山の海も綺麗ですが、飛行中に見える沖縄のサングラスが広がる海はとて美しく、これからは機長としてこの海を守っていきたいと思います。



令和6年5月7日(火)
初機長フライト

第5航空隊第52飛行隊所属
奥野 3尉

正操縦士となる検定を終え、合格といわれたときは、嬉しい気持ちと少し不安な気持ちがあったのを今でもはっきりと覚えています。その後、機長として初めての出発報告を終えたところで、緊張が一層増しました。これまで、初機長フライトのコパイロット(副操縦士)を2回ほど経験したものの、受かった人がどういう気持ちかあまり想像できませんでした。実際、後輩を連れた初機長フライトは、計画していたホールディングポイント(待機地点)に雲があり計画を変更しなければならませんでした。一呼吸を置き、落ち着いてより良い場所を選択していききました。その時、腹案の大切さを改めて実感しました。全般的に緊張して平常心を保つのがやっとでしたが、コパイロット(副操縦士)を始め、多くのクルーに支えられ、無事に初機長フライトを終えることが出来ました。これまで支えて頂いた妻を始め、飛行隊幹部、クリュー、整備員の方々にも感謝しております。引き続き、技量を磨いて部隊に貢献できるよう邁進していきます。



令和6年7月1日(月)
初機長フライト

第5航空隊第52飛行隊所属
金城 3尉

就任挨拶



第5整備補給隊
前任伍長
海曹長 川満 隆太

ハイサイグスー
ヨーチューガナビ
ラ。

令和6年6月3日

付、第5整備補給隊

第10代前任伍長を拝命
しました川満曹長です。特技は航空電子整備員
で、前配置は第5機側整備隊電子器材整備班の先
任海曹として勤務していました。

出身は沖縄県宮古島市です。

前任伍長の任務は、指揮官等の長を補佐する重
要な配置であり、前任伍長に指定を受けて日は浅
いですが、日々責任の重さを痛感しているところ
です。

那覇航空基地には、知識・経験豊富で頼りにな
る第5航空群前任伍長、各隊前任伍長をはじめ、
歴代前任伍長を経験した先輩が勤務していますの
で、困ったり悩んだりした時、いつも相談に乗っ
てもらえるので本当に助かっています。正に前任
伍長ネットワークは凄いと実感している今日この
頃です。

まだ、新米前任伍長ですが、勤務目標である「実
行力」を発揮して、任務にまい進する所存です。

また、沖縄二火会、沖縄海友会等、協力団体の
皆様とも積極的に交流をさせて頂ければ幸いです。

今後も、海上自衛隊第5航空群へご支援とご厚
情を賜りますようお願い申し上げます。

「サマーフェスタ2024」



令和6年7月19日(金)、「サマーフェスタ2024」が開催されました。昨年度、7年ぶりに復活したサマーフェスタも、今年度は、開催時間が早まったことやキッチンカーの出店が増えたことから、猛暑であったにもかかわらず、昨年より多い約5,800人が来場し、各種イベントを楽しんでいました。

ステージでのイベントに、第5航空群からは軽音楽部とエイサー部が参加し、バンド演奏に合わせたエイサー演舞のコラボレーションを披露しました。終了後には、観客から大きな拍手が送られました。

広報ブースでは、陸、海、空自衛隊が、各自衛隊のパネル展示や制服試着を行ったほか、特別展示として、海上自衛隊の砕氷艦「しらせ」のDVD放映に合わせ「南極の氷」と「南極の石」が展示され、猛暑の中、一時の「南極の涼」を提供していました。



「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、
沖縄二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖縄二火会

事務局長 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

■ 第5航空群広報室

那覇市当間252
5aw-5230@ext.mso.mod.go.jp
☎ 098-857-1191 (内5231)

編集協力委員

首席幕僚	北原 1 佐
広報室長	土橋 3 佐
群司令部	與那覇 1 尉
5 空	小笠原 曹長
5 整備隊	山川 1 尉
那 空 基	高田 3 尉
広 報 室	今村 曹長

※2023.2.5「沖縄二火会」WEBサイトを公開しました。(https://okinawa-nikakai.com)

※「でいご123号」は、令和6年3月から令和6年8月までの行事等を基準に掲載しています。